

第7回駒ヶ根市自治組織の在り方検討会 次第

日時：令和7年1月24日（金）

19時～20時30分

場所：駒ヶ根市役所本庁舎大会議室

1 開会 19:00～19:02

（中嶋総務課長）

○新委員紹介。○福岡区の坂本委員に代わり、倉田正清委員。

○欠席報告 森岡委員、林委員、小原委員、中村哲朗委員、水野委員、中村竜一委員、
中原委員、金村委員、菅沼委員

2 座長あいさつ 19:02～19:05

＜岡田副座長 あいさつ＞

○みなさん、こんばんは。

○森岡座長さんに代わりましてご挨拶いたします。

○第7回の検討会という事で、どうぞ、よろしくお願いします。

○前回の会議では、「自治組織がなくなったらどうするか」について話し合っていました。

○発表では、組織がなくなったら困る事例を挙げて、大切な役割を担っていることを、丁寧に説明していくことが必要ではないか、という意見や、市民の皆さんの、安心安全を支えているのが自治組織で、組織がないと市が一番困るし、地域の魅力も減ってしまう、というご意見が出されていました。

○ 白戸先生からは、それぞれの地域で、それぞれの特徴を考えて、自分たちで見つけていくことが必要だというアドバイスをいただきました。

○ 今日、これまで私たちが検討会で話し合ってきた事を、どうやって区や自治会の皆さんに理解してもらうかについて、考えていただくことになっております。

○ 市長さんからは、フォーラムディスカッションを開いて、市民の皆さんの意見を聞くという話も出ているようです。

○ 様々な意見をお聞きしながら、自分たちの組織を、自分たちで話し合い、考えていただく機会をどうやって作ってもらうかという事のように。

○ それぞれの立場で、自由に意見を出し合っていただければと思います。

○ どうぞよろしくお願いいたします。

3 検討事項 19:05～20:25

（1）グループワークについて説明 19:05～19:08

事務局説明 19:05～19:08

次第の＜グループワークの進め方＞、裏面名簿（17名出席）、会場図により

○次第の裏面で説明。グループ分けはテーマ（1）「防災」、（2）「ゴミ、子育て、福祉など」、（3）「若い人に移住・定住してもらうには」

○サブテーマは「これまでの検討会の内容を、自治組織に伝える方法」

○事前郵送資料○関連する市議会一般質問での答弁事項について

- 自治会への加入や参加を促進する条例。駒ヶ根市協働のまちづくり条例を紹介。条例の精神に則って、自治組織の皆さんと取り組む。在り方検討会の議論を市民の皆さんにご理解いただく方法として、来年度、広く皆様にご参加いただけるフォーラムディスカッションを開催すると答弁。
- 地区役員の女性参画 毎年開催のあなたと私のいきいき講座で、地域活動への男女共同の意識改革などもテーマに取り上げる。
- 区長会要望書（主に、市からの依頼事務に対するもの）来月2月5日に区長会で、市から回答予定。
- 次回検討会までに、事務局が、提言の素案を作成する。予めご覧いただき、ご意見をいただく。
- 自治会への検討結果の周知の方法については、これまで、「地域の教科書」や「防災マップ」を作ること、支え合いのしくみ考えることなどが話し合われてきた。
- 白戸先生から事例紹介 若者に選ばれる地域を創るための具体的方法：自治会ごとの人口動態予測をシミュレーションし、年代のターゲットに絞るかなどの戦略を考える。

（白戸アドバイザー）

白戸先生より補足 <白戸教授コメント>

(2) グループワーク	19:08~19:10	<目安の時間>
グループワーク【50分】	19:10~20:00	
①自己紹介 一人1分以内		【8分】19:10-19:18
②役割決め 進行役、書記、タイムキーパー		【2分】19:18-19:20
③グループワーク		【30分】19:20-19:50
④まとめ		【10分】19:50-20:00

(3) 発表・記録 20:00~20:20

グループ(1) 発表(木村一明委員)

- グループ1は、自治組織を通じて防災をどうするべきかで、今回は、どう落とし込んで伝えるかというテーマ
- 最初に、市でやるべきことと、地域でやるべきことを明確に分けること。
- 市は情報の見える化をもっと進めるべき。
- 自治組織の情報発信の雛形を市に作ってもらう。
- 今は、駒ヶ根市の区の情報が見えない。
- 伊那市の「地域の教科書」の例では、区の中のことが分かりやすく、移住者にも好評。
- 区の基本情報、例えば区費、入会金、町内会費も公表したらどうか。そういった費用の面や役員の決め方などまとめたらよい。
- 区の中にはホームページ作りたいところもある。
- 維持管理が大変なので、セキュリティが管理されている市のサーバーに区の情報も入

れたらどうか。基になる雛形は市の方で提示してもらえると良い。地区や自主防災会がホームページを作るとき、個人情報の取り扱いについて規定にしなければいけない。基本ルールは市で作る。地域はその雛形を元に、各区の情報を作り、公開してはどうか。

○ハザードマップも、オンラインで提供を。

○中沢区の集会場にハザードマップ掲示板がある。そこに行って、地域のどこが危険いか分かる良い事例。

○市は横展開していない。多分、市が補助している。良い事例を他のところに横展開した方が良い。

○自治組織と自主防災会が完全にイコールになってる区もある。

○町部には、加入率が6割~7割のところがある。

○町四区の場合は自治会と自主防災会を分離して、運営してるので、自主防災会は90%以上の加入率。

○自主防災は大多数が加入しないと意味がない。今のやり方だと3~4割の人が漏れてしまう。市と地域が協力し合いながら進めないといけなない。

グループ（2）発表（加治木今委員）

○2 グループは、「検討内容を自治組織に伝える方法」から話が入った。

○自分の区に行って伝える時に、総会などの場で伝えるとすると、現状、検討会の中身がないため、伝えることがない。

○隣組長が年に何回顔を合わせるか。4地区のメンバーの中では、総会のみ、五~六回、毎月とイベントの時の区がある。区によって隣組長さんが顔を合わせる回数が違う。顔を合わせが多いところは、情報を出せば、反応してくれる。

○情報に反応していただけるのならば、検討会の情報も、市のホームページだけでなく、市民の目に留まりやすい様に、そこら中にQRコードを設けて、ここを見てくださいというふうに、情報を発信してはどうか。

○市の配布物にもQRコードを付け、区長会にも説明する等、目に留まりやすいように、まずは見てもらうことが大事。

○加入促進について。

○魅力ある自治組織にすれば、加入をしてくるとの意見があった。

○魅力ある自治組織とはどういうものか。

○住民同士で支援制度がある組織。かゆいところに手が届くようなものを区で考える。

○制度ある、高齢者の支え合い推進会議の役員を選ぶときに、「何かお手伝いできますか」と先に問いかけて、それに答えてくれた人に役員や福祉委員になっていただく。目的を持って仕事に就くとやる気が出る。

○町3区では今現在、募集している。

○北割一区は、最初7人だったが20人になった。

○上穂町区でも福祉の役割のアンケートをとっているところ。

○課題として、福祉分野は組織が多すぎる。市、社協。活動費が出るところ、出ないと

ころ。その辺が大変にわかりにくい。

○「そこをスマートにすればもっとやりやすいのでは」という意見が出た。

○各区のホームページがあるといいなという意見が出た。

○管理が大変なので、管理は市で行い、掲載内容を依頼して市に載せてもらう。

○住民が見やすいホームページがあると区の様子がわかり、役員の皆さんも自分の区はどうしようとか、考えることができるのではないかと。役員の負担がかからないのが前提。

○ゴミステーション、月に1回集めている資源ごみ

○役員が監視している。住民皆が参加し、仕事を担っていくことが、組織のまとまりに繋がるのではないかと意見が出た。

○子育て：イベントをやるのが一番良い。楽しい場所だということを子供時代に覚えておいてもらえる。

○北割では2月に防災のイベントを行っている。この検討会で聞かなければ、他の区の人には知らなかった。例えば北割では子供の防災のイベントをやってるから他の区でも見に来てくださいと宣伝する。

○そのためにもホームページの整備や情報の出し方が大事。

○市で宣伝している、「それこまがねでできます」。職員もTシャツを着ている。

○ここで出た提言の一つでも二つでも「それこまがねでできます」と、とにかくやってみるということが大事。こうやって話し合ってるのはもう満腹かなという感じ。

グループ（3）発表（北平委員）

○3グループは若い人に移住定住をしてもらうにはというテーマ。

○自治組織に入る以前に、自治組織という言葉が堅苦しい。

○「ここに移住定住をしてもらう環境を作るには」という原点の方がいいのではないかと意見が出た。

○まずコミュニケーションの場を作ることが大事。

○私はNHKの「カールさんとティーナさんの古民家村だより」※という番組をよく見る。あれだけの外国の人の移住者が来て、それだけで繋がって、いろんなことも手伝って、一緒にやれる環境を作れるということは、入口側のところが大事だと思う。

○これがあれば、嫌なことでも嫌だと思わずに、自然と一緒にやれるのではないかと。

○コミュニケーションの場、特に子供に魅力があることを何か考えて、そういった場を作る。

○そうすれば、親も自然と頑張る。年寄りも一緒に来るという環境になる。

○例えば、単純ですが、今、非常に野菜が高いから野菜を配る。田舎のいいところで自分たちが作って、いらなくなった野菜を、移住者や若い人に、とにかく配って、「どうぞ」という環境を作ってしまう。

○その様なことを自然とやることで、この地域は「楽しいね」とか、「嬉しいね」というそういう気持ちになれる。

○つまりそれが、自治会に入りたいと思う入口になるのではないかという意見。

○それでは、地域の魅力をどうやって発信したらいいか。

○駒ヶ根だと各地区は、子供に好きになってもらい、住み続けたいと思ってもらえるようなことを地域の中に作り込んでいくことが非常に大事。

○イベント：先ほど言ったように野菜を配って、野菜配った後は、今度は野菜の収穫をする。収穫した野菜を持ち寄って、例えば焼き芋大会だとか、豚汁作りだとかいうようなイベントを作る。自然とそういったものを集めていく。

○それやることによって、結果的にいろんな繋がりが出てくるのではないか。

○例えば虫捕り、カブトムシ捕り、沢ガニ捕りとか、川で遊んで魚を捕るとか、自治会や区がきっかけ作りをするイベントを地域でやって、この地域に人と人との繋がりがあ

ることを自然と実感できる環境を作る。

○移住者や定住者に、営業でもいう様に、いきなり物を売るのはではなく、先ずは人となりを伝え、知ってもらう。信頼関係を作って、関係ができた後、自治会の話

を自然にして、「自治会には私達も入っています。一緒に入りませんか？」と言える環境を整える。

○こういったイベントを作るのにも発信方法が大事。つまり、移住者や若い人がどこに

どういうふうにいるのか。

○例えば私の地元では、そば打ち同好会がある。そば打ち同好会を知っているのは、年寄りなど限られた人だけ。若い人や移住者に知っている人はいない。

○一方、ハーフマラソンなどのイベントでは、そば打ち同好会が来場者に無料でふるまう。大事なことは、そば打ちをイベントでやるなら、若い人や移住してきた方にも一緒に入ってもらって、一緒にそばを打って、コミュニケーションをとること。その結果、繋がりができて、いろんなことを協力しあえる環境できる。

○そういった場を作ることが一番大事ではないか。

○検討会のことを、自治会にどうやって広めるかという事

○我々はアイディアしか出せないと思う。

○自治会の皆さんに、これをこうしなさいと言っても、自治会は自治会なりに自分たちはこうしなければいけないという事を考えている。

○そのため、提案しても、本来は自治会が自分で考えていかなければいけない。

○地域をどう守っていくかということ。メインは、その自治会にいる人たちが考えていかなければいけない。

○提案として、「ヒントがありますよ」と言うくらい出せる場、また出せる資料をつくるまでで、「今まで、こんなことは考えたことがなかった。」ということ

をヒントとして出せるのではないか。

※この番組について

「カールさんとティーナさんの古民家村だより」

新潟の限界集落の空き家を次々に美しくよみがえらせてきた、ドイツ人建築デザイナーのカール・ベンクスさんと、料理やガーデン

が得意なアルゼンチン人の妻ティーナさん。

集落にはカールさんの古民家にひかれて移住してくる人が増え、昔ながらの住民との交流も深まっている。「ここは世界一美しい場所」「ぜいたくではないけれど、この暮らしこそが真のぜいたく」と語るカールさんとティーナさん。和と洋、古いものと新し

いものが心地よく共存する古民家で、二人の暮らしを中心に、豊かな自然の中でゆるやかにつながりながら生きる人々を描く、映像の歳時記。(NHK 番組サイトより)

(4) 質疑・講評

20 : 21 ~ 20 : 27

<質疑>なし

白戸先生 講評

○かなりお話をさせていただいて、出し切ったという感じだと思います。

○この委員会のお話を最初にいただいたときに、報告書を出して終わりというのはやめましようと言いました。

○報告書がなくても、何か変わったとか、何か動いたという事にした方がいいですよという話をさせていただきました。

○今日のお話を聞いていて、既にもう具体的にできそうなものがいくつか出てきている。

○そういう、できることを実際にやって、それをまとめて報告書とか提言にするというのが、一番いいので、ぜひ、一旦実際にいくつかやったらどうかと思います。

○もちろん最後のグループがおっしゃったように、区は区で考えているのです。

○こういう（検討会）を区のレベルでもやれば良いと思います。

○もうちょっと具体的に動くということが必要だろうなと思います。

○立派な文章を出すよりも、一つでも二つでも、「どこかの区が何か実際にこういうことやって良くなりました」という方が、説得力があると思うので、そんな形でやるのが一つかなと思います。

○前にも、入山辺（松本市）の話をさせていただいたと思いますが、入山辺も1年間グループワークをやっていたら、「いつまでこんなことをやっているんだ」と言って、動き出して、上手くいきましたという事がありました。

○だから、しめしめという感じはしています。

○逆に言うと、これから少しそういう方向に、この検討会も、動いていく時期が来たのかなというふうに思います。

○どのグループの発表もすごく魅力的だし、面白いし、いろんなアイデアが詰まっていました。

○これを少し整理して具体化するだけでも、何かいろんなことが起きるかなと思いますので、ぜひそんなふうに繋げていければなと思います。

○最後になりますけれども、豊科町のモデル事業の話ですが、安曇野市に入った豊科町で、昔、その職員が僕のところに来て、コミュニティ・集落というか、区ごとの何かモデル事業をやりたいと言ってきたことがありました。

○そのときにお願いしたのは、やはり行政はモデル事業というと、「良いところでやろう、いいところをモデルにしよう」とするんです。

○そうすると、みんなが何を考えるかという、あそこはあいつがいるからできるんだ

とか、あの区長がいるからできるんだとか、やらない理由が先に立ってくるんです。

○それでその職員に、「こんなことを聞くのは何ですが、あそこができたなら俺のところで絶対できるって区はありますか」と聞いたら、「立場上言えないんですけど」と言いながら、ある区を紹介していただきました。

○その区は悪い区じゃないのだけれど、具体的に言うと分かっていますが、駅の近くで、流動世帯があって、商店街があって、農家もいて、古い人も新しい人も、外国人もいるという、要するに、まとまらないという意味で難しい区だったんです。

○そこで、このようなグループワークをやったんです。

○1回目行ったら、大体こういうところでやるとき「子供」をテーマにすると大体みんな話がまとまるので、テーマは子供でやりました。

○メンバーは、大体、20人位いらっしゃいました。

○区長さんとか役員の方とか、あるいはピックアップして、若い人だとか。そういう人たち20人集まっていたいて、フリーディスカッションで1回やりましょうと。

○やはり1回目に、片方のグループはうまくいきましたが、もう片方のグループは、最初に当たった老人クラブの会長さんが40分のうち35分話しちゃったんです。

○しかもその話が、「最近の子どもは駄目だ。」「返事もしないし何もできない」というのです。「子どもが悪いのは、父ちゃん母ちゃんが悪い。」「父ちゃん母ちゃんが悪いのは、じいちゃん、ばあちゃんが悪い。」「じいちゃん、ばあちゃんだけじゃない、学校の先生も校長も議員も」、最後は「田中康夫知事が悪い」と言ったんです。

○そしたら、もうすっかりシーンとなっちゃったんです。

○そしたら終わった途端に公民館長が走ってきて、「先生、次はあの人を呼ぶのはやめましょう」と言いましたが、「それは駄目だ」と。「中に入れているからまだあの程度住んでいるのであって、外にいたら、何をするかわからない。200%の力で足を引っ張るだろうからやめてくれ」とお願いしました。

○次の時も、その方を呼んでいただいたんです。それで、姑息な手段を考えたんですね。

○その方の隣に松本大学の学生を座らせて、「今日は一番若い方から始めましょう。こっち回りに」と、ゆっくり話してもらって、時間切れを狙ったんです。

○ところが、そういうときに限って20分も早くその人のところに行っちゃったんです。

○「やばい」と思ったらその方がニコニコされていたんです。

○それで、一言、「俺のところでもできる」と言ったんです。

○どういうことかというと、若い親御さんたちが、「自分は外から来たので、地元のおばあちゃんたちが作るようなおやつを作りたい」とか、「子供の登下校の見守りを誰かしてくれないか」ということをずっと話していったら、それは、老人クラブができる仕事なんですよ。「ボランティアで老人クラブが全部できる」とおっしゃって、1ヶ月後に「〇〇地区子供見守り隊」というのができたんです。

○さあ、豊科町中みんながびっくりして、その後、数ヶ月のうちに隣町でも同じようにできました。そういうふうに広がっていくんです。

○何が言いたいかというと、自治組織も区もそうなんです、やっぱり自分たちだけじ

やなくて、人がどうしてるかとか、人と人との繋がりを見ていくということは大事だし、それからそういうことを具体的にやってることで、例えば「〇〇地区は何もない」とみんな言っていたのですが、実は老人クラブというものすごく大きな力があったんです。○ただそれがたまたま今までは外されてた。○避けられたり、埋もれてたり。そういうものを掘り起こすだけでもすごく力になるんです。○悪いところでやると言っているのではないですよ。だから、とにかく何か具体的にやって、みんなでそれをシェアして、刺激を受け合って動くってというような形で進めたたらいいのかなと。そんなふうに思いました。以上です。

○ 質問・意見は、事務局へ

4. その他 20 : 27～20 : 30

事務局より今後の予定 令和7年4月24日（木）19時00分 市役所大会議室

倉田正清委員より自己紹介

前委員の坂本裕彦委員後任。現福岡区長。今日から仲間にさせていただく。

5. 閉会 （桐山室長） 20 : 30